



## タンチョウ博士のお話 (第31回)

### ヒトには人種があるけれど、タンチョウには？

今、この文をお読みのあなたがA)「日本人？それともアメリカ人？」と問われたら、何と答えますか。多くのヒトは日本人と答えるでしょう。では、B)「東洋人？西洋人？」と言われたら、東洋人と答え、C)「地球人？宇宙人？」と聞かれたら、地球人と応じるはずですが。

では、では、D)「黒人？それとも黄色人？」と尋ねられたら、どう答えますか？

この四つの質問は内容が同じではありません。A)は居場所に関わりなく、国籍による答えですし、B)は多少ヒトの姿・形が絡みますが、やはり出身地域と結びついています。C)は明かに居場所(地球という星)ですね。つまり、A)・B)・C)は、主にそのヒトの出身地に関わりのある問いと答えです。しかし、D)はヒトの容姿が決め手です。

では、タンチョウで上のような「問い」と「答え」ができるのでしょうか。

タンチョウは、今は日本(北海道)・中国・ロシアの3か国で主に繁殖しています。しかし、夏に中国やロシアにいても、冬は中国や朝鮮半島で一緒に暮らし、北海道へはめったに来ません。同じように、北海道と北方領土に住む個体はユーラシア大陸へは出掛けないようです。つまり、北海道と大陸という、地域を分けた二つの群れ(地域個体群)があるわけです。

では、住んでいる地域のほかに、二つの群れに、はっきりした違いがあるのでしょうか？外国の研究者の中には、両者に行動などの違いがあり、同じタンチョウという種だけれど、亜種に分けようという人もいます。ただ、人種を生物学的に亜種と呼ぶのは、今のところ違和感を持たれているように、タンチョウを2亜種に分けるのもまだ確定したわけではありません。

ところで、北海道のタンチョウも、道東と道央という二つの地域に別れた群れが出来つつあります。しかし、道央の個体も道東から来て日は浅いので、二つの群れに姿や暮らしなどで基本的な違いはありません。

ただ、長沼町の番いは、道東で見られない行動をとることもあります。その一つが、道東での巣材は枯れヨシが普通なのに、長沼町の番いは、2年続けて別種の枯れた水草で巣を造りました。それも、近くにヨシがあるのに、です。二つ目は、道東では野生の餌のほかにトウモロコシや麦・豆などにも手(嘴?)を出しますが、コメはほとんど食べません。が、長沼町では秋に時々コメも食べ(写真)、水田を畔にしたこともあります。



長沼町の水田で、イネの穂をくちばしで挟み、実をしごくようにして食べるタンチョウ (撮影 正富宏之)

タンチョウは環境に適応する能力が優れ、それ故に絶滅の危機から回復してきました。確かに、環境に応じて彼らは暮らしを変えますが、長沼町の例は群れとしてではなく、今のところ個体差によるとするのが正しい見方です。でも、長〜い年月が経てば、やがて二つの異なる地域個体群になるかも…、というのが、今年の正月に私が見た夢です。

(文：正富宏之)

### タンチョウに関する質問を募集します！

タンチョウに関して知りたいこと、質問がある方は、上記メールアドレスへご連絡ください。いただいた質問には、広報ながぬま2月・6月・10月号で掲載される「タンチョウ博士のお話」で正富先生が回答します。

→こちらまで  
seisakusuishinka@ad.maoui-net.jp



【問合先】役場企画政策係 (☎76-8015)